

## 70. 「命を繋げる」

2016.11.1 遠藤清賢

私たちはこの世に生まれ、今を生きています。何をするために生まれたのかという理由はあるのでしょうか。でもこのように生まれたのですから、自分の命を有効に活かしたいと多くの人は願うのだと思うのです。しかし、どのように考えようが私たちが生かされているのは、自分の命を未来に手渡すことです。命を繋げるということが地上の全ての生物に課せられている本能です。命を繋げるということは、子ども達を育てその成長を支えることです。そのために私たちは今を生きています。命の継続とは家族を持ち子どもを産み育てることだけではなく、この世の中で多くの人たちと関わりを持ちながら働くことも命を未来に繋げることだと思うのです。それぞれが生活の糧を得るために、自分自身で探した働きを、毎日続けることが命を未来に繋げることなのだと思います。また、直接、子どもを育てるに関わっていなくても、それぞれの人が今を一生懸命に働き、生きていることが子ども達の成長を支えているのです。

自分の祖父母が家族のためにいかに生きて、働いたのか本人から直接に教えてもらいました。昭和の20年代以前に生まれた人々は、戦争によって疲弊した社会の中で、非常に苦勞しながら家族を養った祖父母たちの姿を見て育ったと思います。その祖父母が苦勞したころの時代を篤く語ってくれたことを思い出します。そして、祖父母の楽しみは子ども達の笑顔や、孫たちの笑顔でした。今の社会は祖父や祖母の話を聴く一家の団らんを過ごすことは少なくなってしまいました。しかし、今思い起こせばその時間は私にとってはとても大切な宝物のような時間でした。人はどのように生きるのか、神を信じまた人を信じること、一生懸命に働くこと、努力すること、家族を思いながら過ごすこと、生きる一時一時が自分の成長の支えになることを教えられました。私が悪いことをした時は厳しく叱ってくれましたが、私の全てを受け入れ、心から信頼して頂きました。今は亡き祖父、祖母の命を、私は自分の命として頂いたと確信しています。祖父母の命、その他沢山の命が私の中で生きて、私を支えています。命を繋ぐとは、このような事なのだと私は思います。今を喜んで生きて、働いている大人たちの姿を子どもたちは見ているのです。多くの人が一生懸命に働いたから、多くの人たちの命をしっかりと支えているのです。人として命を頂き、生きた結果は何の意味もない人生であったということは決して有り得ないことです。それは気が付かないだけで、それぞれの人の何気ない日常の働きは多くの人を生かし支えているのです。そして亡くなった命は誰かの命に代えられて新しい命として生き続け、新しい命の繋がりを創造するのです。



### 《くず汁》

#### 《材料》 5~7人分

人参1/4本、ごぼう1/6本  
干し椎茸4枚、さやいんげん4本  
長芋5~6cm、木綿豆腐100g、  
油揚げ2枚、角コンニャク50g、  
豆麩10g、醤油おさじ3、  
片栗粉おさじ1/2

### 《作り方》

1. 干し椎茸は水で戻しておく。豆麩は水に浸けて柔らかくし水気を切っておく。
2. 人参、ごぼう、角コンニャクは短冊切り、干し椎茸、油揚げは千切りにする。
3. さやいんげんは色よく茹でて斜め薄切り又は小口切りにする。
4. 鍋に水1ℓを入れ、人参、ごぼう、角こん、干し椎茸を煮る。
5. 煮えたら油揚げ、長芋、豆腐、豆麩を加えて一煮立ちさせ、醤油で味を付ける。
6. 片栗粉を2倍の水で溶き、回し入れ、とろみを付ける。

